

ユーラシアを歩く会 行動報告書

The Trans-Eurasia Walking Journey Program

1. 計画コース概要

提出日:

地域分類	日本	区間番号	西部第4区間
実施期間	2011 年 4 月 15 日～4 月 22 日		
計画区間	出発地 東萩駅	到着地 浜田駅	参加人数 4名

2. メンバー表

No	役割・分担	氏 名
1	リーダー	住山 茂
2	会計係	甲田征三
3		甲田みつえ
4	記録係	横山泰一

3. 現地での歩行結果

	年月日	出発～到着	区間距離 Km	天候	気温 最低／最高
1日目	4月15日	東京・横浜から新山口経由東萩 到着後萩観光			
2	4月16日	宇田郷→東萩	22.8	曇り	15℃くらい
3	4月17日	宇田郷→戸田小浜	24.9	晴れ／曇り	10℃／15℃
4	4月18日	戸田小浜→益田	9.8	曇り／雨	12℃くらい
5	4月19日	岡見→益田(A班) 岡見→周布(B班)	14.6 17.1	雨・強風	10℃
6	4月20日	周布→浜田	9.5	晴れ	10℃／15℃
7	4月21日	解散・各自観光			
8	4月22日	各自帰路へ			

区間概念図



4. 見聞録

歩き方

東荻に3泊、益田に2泊し、それぞれのホテルを起点に JR 山陰線を利用して軽装で歩行した。荷物を持つての歩行は2日間でそれぞれ10Km程度であった。

ルート状況

基本的に海岸沿いの国道を歩いた。何箇所か海岸まで山が迫り断崖となって海に落ちている所は国道が岬の付け根をトンネルや峠で通過している。この場合はなるべくトンネルを避け、海沿いの旧道を選んだ。昼食は道の駅やレストランが利用できたが、途中にはコンビニなどなく、小さな店があるのみで、人と会うことも少なかった。

4/16

荷物はホテルに置いてサブザックで東荻駅から JR 山陰線で宇田郷駅まで行きそこから東荻へ戻るルートを歩いた。

7:44 東荻発 2両のワンマンディーゼル列車でほとんどは通学の生徒。

8:15 宇田郷着

8:16 宇田郷駅から歩行開始

国道191号を東荻へ向かって歩き出した。道路は海岸線ぎりぎりを通っている。日本海の荒波が道路に向かって打ち寄せていた。

9:57 木与駅 交流

駅の向かいに食料品や日用品を売っている小さな商店があり、おかみさんが魚をさばいていた。近くのおばあさん連中のたまり場となっている。通過証明のサインをもらいながら交流した。缶ビールと茹でた鬼イカの児を買った。鬼イカの児はホタルイカくらいの大きさで墨ごと茹でてあり美味であった。

11:27 道の駅 昼食

豪華な定食にさっきの店で買った鬼イカの稚魚をつまみに生ビールを飲む。和牛がたっぷり入ったメンチカツも注文した。

12:33 出発

日本海沿いの国道を歩く。

16:00 松陰神社

東萩駅の手前で松陰神社へ寄り道し、松下村塾を見物した。

16:47 ホテル着

プチホテルグランベール泊

4/17

宇田郷駅まで電車で行き、今日は浜田方向へ国道ではなく海よりの旧道を戸田小浜駅まで歩き、列車で東萩へ戻り宿泊した。

7:44 東萩発

8:15 宇田郷着

8:20 本日の歩行開始

駅前には日本海。国道はトンネルが連続してあるため旧道を歩く。ハマダイコンが咲く道を山陰本線としばらく並行して歩くと鉄道はトンネルへ、道路は山の中へ登ってゆく。海岸まで山が迫っているため道路はくねくね曲がりながら標高 178m の峠を越えている。途中で車と出会い、通過証明をもらった。

10:00 大刈峠

11:17 須佐港 須佐駅手前で国道 191 号に合流

11:40 須佐駅 昼食

12:25 出発

国道は海岸から離れ半島の付け根を通過して江崎港へ出、再び海から離れ仏峠（標高約 200m）を短いトンネルで通過して島根県の飯浦集落入口へ到達した。

15:15 飯浦

国道には長いトンネルがあるため海沿いの道を歩いた。人形鼻という景勝地が眼下に展開し、昔の旅人が籠を止めて景色を楽しんだ「籠立て石」があった。

16:20 戸田小浜駅到着

駅にいた高校生に通過証明をお願いした。

駅前に 1 軒ある店も日曜日のせいか閉まっていた。少女のうちの一人がその店の子供とわかりお願いしたが「店番のおじいちゃんがない」ので缶ビールをあきらめた。

16:51 戸田小浜駅から列車で東萩へ

17:53 東萩着

プチホテルグランベール泊

4/18

昨日の終着地戸田小浜まで列車で行き、益田まで歩いた。荷物を持つての移動。

7:44 東萩発

8:45 戸田小浜着

9:00 戸田小浜駅出発

海岸沿いの国道を歩く。海岸近くに観音岩や平島など小さな岩が点在している景色のよいところ。すぐに雨が降り出したが合羽を着るほどでもなく、まもなく止んだ。高津大橋を渡り益田市街へ入った。

11:40 益田駅到着

昼食後津和野見物
益田グリーンホテルモーリス泊

4/19

最終日の歩行距離を短縮するため予定を変更して 2 班に分かれて歩行距離をかせぐことにした。しかし、天候は雨風が強く、寒い厳しい歩行となった。

8:03 益田発 列車で岡見駅へ

8:25 岡見着

8:32 岡見駅出発

8:43 分岐 甲田夫妻は益田へ、住山・横山は周布へ

甲田班

10:05 鎌手

11:10 石見津田

12:50 昼食

13:50 益田駅到着

住山・横山班

旧道を歩く。雨、風が強く、橋の上など吹きさらしのところでは飛ばされそうになった。

9:38 三保三隅駅

国道へ出て峠（標高約 80m）を越えて折居集落へ。

10:45 道の駅 簡単な昼食

単独でドライブしている女性ライダーに通過証明をもらう。

12:27 周布駅到着

13:35 周布発 列車で益田駅へ

14:14 益田着

益田グリーンホテルモーリス泊

4/20

甲田夫妻は都合で急遽帰ることになり、残り 10 km 弱を住山・横山が周布から浜田まで歩いた。

8:57 益田発 列車で周布駅へ

9:33 周布着

9:35 周布駅出発

山陰本線沿いの旧道を歩いた。

11:40 浜田駅到着 東萩～浜田の歩行完了

午後は浜田市内見物

グリーンリッチホテル泊

自然環境

ところどころ海岸まで山が迫り断崖を形成している。屏風岩、観音岩などと呼ばれる岩が海岸線にあり、風光明媚である。小磯の鼻、小田部ノ鼻、瀬越鼻、人形鼻、鵜ノ鼻、魚待ノ鼻、洞ノ鼻、大崎鼻、赤島鼻など地名に鼻がつく。鼻は岬の意味で鋭角に突き出たものを「鼻」と呼ぶことからきたようだ。

気候は北緯 35 度が島根県中央部で、東京と大きく変わらない緯度上にあり、冬を除き温暖で、東京より日照時間が長い（島根県ホームページより）とされているが、この歩行では風も強く、日本海の荒波をあじわうことができた。冬の厳しさを実感させられた。

人々の生活

人口は山口県の 145.1 万人に対して島根県の人口は 71.6 万人で 47 都道府県人口ランキング 46 位。今回の歩行地域の人口は、萩市（山口県）54,000 人、益田市 50,000 人、浜田市 62,000 とほぼ同じくらいの人口である。（平成 22 年国勢調査）

東萩から海沿いに小さな漁港が点在し、イカ釣り漁船が係留されていた。浜ごとにサザエやウニの密猟禁止の看板が掲げられていた。浜田は水産加工場があり、大きな漁船が停泊していて、クレーンでの魚の水揚げが見られた。

都市と都市の間には小さな集落が点在しているが商店は少なく、買い物は車で近くの都市まで出かけるようだ。

食べ物・酒・その他

魚は美味しかった。特にイカは活イカの姿造りで身は刺身で、頭と足はから揚げで美味しくいただいた。「金太郎」は「ヒメジ」の地方名で朱色が美しい 15 センチ程の小魚で刺身や煮つけで食べた。真ふぐは薄造りで味わった。

剣先イカ、鬼イカ（スルメイカ）の子、金太郎、アマダイ、ノドグロ、アワビ、サザエ、ウニ、アジ、フグ、カワハギ、マグロ、タコ、ナマコ、ヒラメ、カレイ、サバ、カサゴなど、そのほとんどを食べつくした。

「須佐の男命イカ」などイカは地域ごとに呼び名が変わる。魚が中心の食事であったが、地元の牛肉（見蘭牛*）もたたきとメンチカツで食べた。

（*萩の北、日本海に浮かぶ見島の見島牛（神戸牛など和牛のルーツといわれる）とオランダのホルスタインを交配させたもの。全身が霜降りで、やわらかく甘みがある。Wikitravel より）

日本酒は萩の地酒「環日本海」（日本海酒造 浜田市三隅町）と地ビール「チョンマゲビール」（山口萩ビール(株) 萩市土原）、そして被災地支援のため宮城県のお酒など。

萩では土産物屋で夏みかんとその砂糖漬けを食べた。津和野では「源氏巻」を試食し土産として購入した。この源氏巻には次のような話がある。津和野の殿様が吉良上野介から浅野内匠頭同様に非礼を受けて腹を立てた。そのことを知り国家老の多胡外記が早速吉良家に進物を贈りつけた。その進物の一つに小判を下に敷きその上にお菓子をおいたと伝えられているそうです。（山田竹風軒「銘菓物語（源氏巻）より」）

観光

萩（4/15）

城下町では木戸孝允の誕生地、高杉晋作らが幼年期に勉強した円政寺、萩藩御用達の豪商菊屋家住宅、高杉晋作誕生地、明倫小学校などを見物した。

津和野（4/18）

益田から観光タクシーで津和野へ。ボランティア観光ガイドに案内をお願いして、殿町通りの鯉、津和野カトリック教会、藩校養老館跡、多胡家表門、乙女峠マリア聖堂、太鼓谷稲成神社、森鷗外旧宅、森林太郎（鷗外）の墓のある永明寺（この寺には

千姫救出の活躍をした坂井出羽守の墓もある）などを見物した。

浜田（4/20）

石見神楽（どんちっち）の町であることから駅前にはからくり時計があり、毎正時に笛や太鼓を用いて囃子を奏で、須佐之男命が八岐大蛇を退治するからくり人形が動く。城下町であるが浜田城址の近くに史跡が点在するものの、町並みは昔の面影はない。以下の史跡を見物した。

心覚院：木像阿弥陀如来立像（国指定重要文化財）鎌倉中期の快慶作

厳島神社：12世紀に安芸の宮島から勧請遷座された神社

会津屋八衛門碑：八衛門の父清助は浜田藩の廻船御用をつとめていたが紀州沖で難破。漂流後オランダ船に救出され東南アジアをめぐった。八衛門は父の経験談に刺激され海外貿易を始め、藩の重臣にも認められ藩財政を潤したが幕府の知るところとなり死罪となったといわれている。

浜田城跡：石垣のみ残されているが、二の丸跡に浜田護国神社がまつられており、日清戦争で息絶えるまでラッパを吹き続けたという木口小平の銅像、島村抱月の記念碑などがある。

5. 人々との交流の記録

木与駅前のお店のお母さんとお客のおばあさん、大刈峠手前での通りがかりの車の運転手、戸田小浜駅前の女子高校生、道の駅で一緒になった女性ライダーなどの皆さんに歩く会の趣旨を説明しサインをいただいた。

6. 健康・安全面の記録

メンバーの病気や靴擦れなどの怪我はなかった。

7. 総費用／円

個人	交通費	45,000
	宿泊費	40,000
	食費	46,000
	その他	5,000
	合計	136,000

グループ		
	合計	

個人の費用は横山の例を示した。

8. 記録写真・ビデオなど

東萩～浜田歩行写真、観光写真・グルメ写真に示す。

東萩～浜田歩行写真



4 月 16 日

宇田郷駅から本日の歩行を開始。東萩に向けて歩く。



国道は海岸沿いを通っている。バスの時刻と本数を確認しているところ。



途中にあった商店で通過証明をもらった。



店の売りに貢献すべくビールを購入。



東萩駅に到着して記念写真。



4月17日
昨日と同じ宇田郷駅から今日は東へ。



ハマダイコンの咲く海岸線を気持ちよく歩いた。



山陰本線の各駅停車は 1 両か 2 両編成。車の通りも少なくのどかな歩行となった。



めずらしく車が来た。運転手はめずらしがって話かけてきた。これ幸いに通過証明をもらった。



大刈峠手前の展望



人形鼻近くの仲良し親子岩



屏風岩



本日の終着地点戸田
小浜駅で



女子高生に通過証明
をもらった。



4月18日
本日のスタート地点



益田駅まで荷物を持つての歩行。雨模様の寒い日だった。



益田駅に到着



4月19日

本日は岡見駅まで列車で来た。ここから益田方向と浜田方向に分かれて歩いた。



ここで甲田夫妻班と
住山・横山班が別れ
た。



日本海は大荒れ。岩に打ち寄せる波は迫力満点。



強風と雨で厳しい歩行となっ
たが、無事に周布駅に到着した。



4月20日
周布駅をスタート。



石見神楽のお面を作
っている工房があっ
た。



終着地浜田に到着
し、歩行を完了し
た。

観光写真 萩



東萩駅近くのホテルに荷物を置いてから歩いて萩城下町地区へ出かけた（左写真）。
 先ず、萩バスセンターの観光案内所で地図をもらった。札場跡は幕府や藩からの「御触」（法令や規則など）が書かれた高札が立っていた（右写真）。



田町商店街では通りの両側の黄色い旗が並び、片面に萩の方言、その裏側に標準語で意味が書いてある。写真の「うるうた」とは「お腹がいっぱい」とのこと。
 右の写真は木戸孝允の誕生地



明倫小学校には藩校明倫館の南門が復元されている（左写真）。右の写真、並んで建つ左側の碑は、元文6年（1741）6代藩主毛利宗広が創建の由来を記して建てたもので、旧明倫館から移したものの。右側は嘉永2年（1849）藩主毛利敬親が新明倫館の開校を記念して建てたものです。

津和野



ボランティアガイドの説明を聞く。
劇を繰り返さないために昭和6年に建てられた教会)



カトリック教会（乙女峠のキリシタン迫害の悲



森鷗外の生誕地



森鷗外の墓。森林太郎と刻まれている。

浜田



浜田駅前のからくり時計

グルメ写真

萩の初日（4/15）残念ながら写真がない。「食べ処こづち」での夕食メニュー

イカの姿造り、鬼イカの児、あま鯛、金太郎の天ぷら、刺身盛り合わせ（サザエ、イカ、アカウニなど）





萩の割烹千代での夕食 (4/16)

写真は二人前。左上から刺身の盛り合わせ (サザエ、金太郎、イカ、ウニなど)、真ふぐの薄造り、あまだいの煮付け、見蘭牛のたたき、最後にサバ寿司 (半分以上食べてしまった後)。



須佐「梅の葉」での昼食 (4/17)





益田「田吾作」での夕食（4/18） 写真は二人前
アジのたたき、オコゼの姿造り、オコゼのから揚げ



浜田「さか本」での夕食はさわらの刺身、カレイの煮つけ、ブリのあら煮。